

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行NO. 1867	
日時 2020年05月24日(日)晴・やや冷	
山域 天城・猿山(1000m)西尾根	
コース 長泉6:30-修善寺-西伊豆スカイライン-仁科峠-わさびの駅8:57-西尾根-大きなモミ9:50-林道10:10-猿山南のコル11:24-猿山11:41-昼食11:50~13:00-白沢分岐13:33-杣道-仁科川15:50-わさびの里16:09-仁科峠(反省会)-そば処「おきちゃん」-長泉	
標高差 上り わさびの駅約330m~猿山1000m=約670m 下り 同上	
快適度 (5段階評価) 3 (やや藪あり・照葉樹の落葉が滑る)	
参加者 後藤、加藤、井上、星=4名	
<h2>間に合ったシャクナゲと厳しい山</h2>	

久しぶりに天城・猿山に向かう。目的は、シャクナゲとバリ。登山口の宮ヶ原に後輩がいるので、早朝、手土産の伊豆長岡「おんせん饅頭」を買いに行ったが、「黒柳」開店は8時で買うことができなかった。

西伊豆スカイラインを仁科峠に向かう。絶好のドライブ日和。海拔0mの大瀬崎から天城峠まで縦走が懐かしい。仁科峠を宮ヶ原に下る。ただ、この道は狭くて急。

このところ、車のトラブルが多い。(エル・グランド) 2月は、八ヶ岳で大きな事故。その後、マフラーが破けた。車が古くなり、部品がなくて交換が大変。

そんなことを考えながら、峠を下っていく。時々、バイクや車が上ってくる。狭い林道で下から来たバイクをやりすごそうと、左脇に寄った。そこに角が尖った落石があったらしい。その石がタイヤを破りパンクした。



左前輪。助手席のKは空気が抜ける音が聞こえたらしい。すぐガタガタになった。右によってタイヤ交換。パンクは、何十年記憶がない。8人乗りの車だから、タイヤが大きく交換は大変。

そもそも、スペアタイヤが何処にあるかも最初、分からなかった。しかし、若い（50歳）のI君が大活躍。彼は自身の普通車のタイヤ交換もやるらしい。

やっぱり、若く馬力がないと難しい。女性ではJAFを呼ばなければ絶対無理だろう。（JAFは加盟している）I君は慣れた手つきで、テキパキとこなし、約30分で終了。

時間が掛かれば山はダメだったかもしれない。雨とかだったら、イヤになってしまう。ともあれ、無事終わってヤレヤレ。タイヤは、耐久年度を過ぎていたかもしれない。



林道のヘアピンカーブ先の「わさびの里」着。係はいなかったが、車はここに置いた。トイレは完備。「ワサビの里」は、良水が湧出するらしく、多くの方が汲んでいた。「どこに上りますか」と聞いてきた年配女性は、わざわざ、湯ヶ島から来たという。そんなに美味しいのか。

帰りに判明したが、林道脇とスカイラインで「アナグマ」を二匹見た。仁科峠には大規模牧場があり、牛が放牧されている。それらの動物の糞尿も混じっているかもしれないのに・・・。（笑い）

「アナグマ」は、最初見たときは「タヌキ」と思ったが、I君の指摘で、どうもタヌキと感じがちょっと違った。タヌキは顔がもっと丸いようだ。なんか、モソモソし敏捷性はない。太ってお尻が、ポヨポヨしている。スカイラインに車に跳ねられたのが一匹いたが、よほど多いのか。

里の先の無住の民家の脇の植林地から、西尾根にとりつく。例によって最初から、ものすごい急登。しかも、ガジガジの大岩・巨石がゴロゴロしている。

アナグマ（ネット）





立派なモミ

枯れ枝が散乱し、とにかく上りにくい、歩きにくい。丹沢とだいぶ違う。・684m峰を経て林道に出た。標高は約750m。

左手先の法面を上り、上部に向かう。すぐ上にシャクナゲの木があった。標高は800mくらい。北西面だから環境がいいかもしれない。シャクナゲは、上部に延々と続いていた。すでに終わったものが多い。

その中で植林地の中に細いヒョロヒョロした木に咲いていた。まだ、色も赤くキレイ。見ることが出来てよかった。上は大きな木が沢山あったが、花が咲いた痕跡が少なかった。これが全て咲けば見事であろう。

小さなピークを幾つも上ったり下ったり、なかなか厳しい。下りは常緑樹の落ち葉が滑って要注意。樹間に猿山とおぼしきピークが見えた。南のコル（峠）の一つ手前のピークの西下、標高約810mに赤ペンキのマーキングがあった。正面は「猿山へ」。上ってきた西尾根を巻くように「本沢（白川？、仁科川？）」の矢印。しかし、本沢名称は2・5地図では不明だった。向かって左にもマーキング。



アマギシャクナゲ

左のマーキングは、帰りに通過したが、南の峠に通じるバイパス道だった。本沢の道は、後の推察で諸坪峠（しょつぼとうげ）に続く林道に出るものかもしれない。帰路、これを下るかの案もあったが、下らないで正解だった。



土肥Yさんの美しい山名表示板

最後の890m峰を越えて峠着。土管・碍子（がいし）が転がっていた。土管は分かるが、碍子は何に使ったのか。峠から猿山の110mの上りは厳しかった。次第に大きなブナが林立し素晴らしい。喘いで頂上着。標高は、ちょうど1000m。地理院の標高改定前は、1000mなかった。天城で10

〇〇峰は貴重。

頂上に何方か1名いた。聞けば「沼津のカワシマ」だった。滑沢から来たようだ。会の宣伝をして分かれた。すぐ下のブナが倒れた日当たりの良いところで昼食。気温が低くて案外寒い。ビアが進まない。I君も珍しく1本でお終い。今回も頂上で30分昼寝を試みたが、外野がうるさくてダメ。手話でやってくれ〜い。(笑い)



本沢分岐

午後の行動。すぐ下にいいシャクナゲがあった。上りでは気が付かなかった。最後にいいシャクナゲを見て良かった。峠で下山道を確認。出来れば周遊ルートがいい。上ってきた北西尾根の北に明瞭な踏み跡がある。下ってみた。が、すぐ崖崩れでダメだった。山腹のトラバース道は、この手が多い。峠から東に下る萩ノ入川道もメチャメチャ。危険なので中止戻ったら、来た時の810mコルにつづくバイパス道に出た。これに戻った。

前述の本沢道をどうするか迷ったが、結局往路を下る。林道に下り、新しい尾根も下ったがダメで戻った。ただ、西尾根標高570mに杉道があったので下る。だいぶ北に流されたが、無事、仁科川上流に出て、仁科峠からの林道に導かれた。

駐車場に来ると今朝いなかった、「わさびの里」の若い係が来て、無断駐車を咎めた。一応、ダッシュボードに身分証明を表示していたが、気が付かなかったか無視だった。いずれにしても、観光地で来訪者に無礼な態度。本来なら、一発噛ますがところだが、トラブルは避けた：

帰路、空腹で清水町の「そば処・おきちゃん」に寄る。600円のソバはサイコー。1.5合の熱燗は、美味しく400円は超安かった。I君の知人も偶然いて大いに盛り上がった。

